

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
臨床薬理学	續 佳代	2
理学療法研究法	佐々木 幸子	9
理学療法研究Ⅰ	橋田 浩	16
理学療法研究Ⅱ	橋田 浩	25
理学療法総合セミナー	佐藤 明紀	34
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	43
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	52
臨床実習Ⅴ(総合)	池野 秀則	61
臨床実習Ⅵ(総合)	牧野 均	70

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学《2020～2022カリ》				ナンバリング	2346
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・機能)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、投薬中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。

授業の概要

医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。作業療法、理学療法は入院治療の一環として薬物療法と、精神療法とともに行われるものである。ほとんど全ての患者は薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に出会う疾患に使用する薬剤の種類、薬効、薬効の持続、副作用について概説するので、適正な作業療法、理学療法に生かせる知識を習得する。

到達目標

- ・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。
- ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。
- ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。
復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	・作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 ・薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 ・薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 ・依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 ・自律神経系における情報伝達を理解する。 ・副交感神経系作用薬について理解する。 ・交感神経系作用薬について理解する。 ・痙縮治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	中枢神経系の疾患と薬 ・神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 ・中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 ・中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記による復習試験で評価する。
その他	0	
教科書		
薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究法《2020～2022カリ》				ナンバリング	3410
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている(関心・意欲・態度)」ことと特に 関係がある科目である。これまでに学んできた専門領域の科目と関連し、「理学療法研究セミナー」「理学療法研究Ⅰ」「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

理学療法における研究の意義、研究計画の立案、先行研究論文の収集の仕方、調査・実験方法および測定機器、計測・データ分析、文献的考察および論文の書き方について学ぶとともに、国内・外の研究論文の読解演習を通して理学療法研究を理解する。

到達目標

理学療法における研究の意義、用語、理論、倫理が説明できる。
実験・調査計画、計測・データ分析の基本的手法について説明できる。
文献的考察を実施することができる。
論文の作成に関する基本的な手法、考え方について説明できる。

授業の方法

参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。
学生同士で議論、発表する回を設ける。
また、興味のある理学療法領域の先行研究の論文を読み、その内容について自身の考えをまとめたレポートを提出する。

ICT活用

Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として調査・研究を行ってきた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして発表課題に対するコメント、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	理学療法研究総論:理学療法学における研究の位置付けと概要について理解する。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	研究デザイン:研究デザインの分類、各手法の利点と欠点について実例を通して学ぶ。 対象者のサンプリングについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	測定手法:理学療法研究で測定する変数とその信頼性、妥当性について学ぶ。 研究における各種バイアスについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第4回	研究倫理:ヘルシンキ宣言、人を対象とした医学系研究の倫理指針について学ぶ。 個人情報の取り扱いについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第5回	統計解析:基本的な統計技法について学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	研究計画書の作成①	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	研究計画書の作成②	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある分野の論文を熟読すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	研究計画書の内容を発表する。	第8回目に発表するプレゼンテーション資料を作成する。(90分)	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度および授業内での課題によって総合的に判定する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 内山靖編集 医学書院		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究Ⅰ				ナンバリング	4601
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1

担当教員 橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、研究課題に沿った対象者や実験機器の選択、調査表の作成をし、理学療法における科学的検証能力を養う。卒業研究論文作成や卒業研究発表を目指すため「理学療法研究法」「理学療法研究セミナー」と関連し「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。このため理学療法研究ⅠとⅡは連動して実施する。最終的にはDPである、理学療法学における課題を論理的に探求する能力、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける。

授業の概要

セミナー教員の指導の下に、研究課題に沿った妥当な実験・調査方法の選択、即ち、対象者および実験機器の選択あるいは調査表を作成し、少人数グループによる実験・調査を通して理学療法における科学的検証能力を養う。

到達目標

- ①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。
 ②可能であれば実験・調査を行い、信頼性のあるデータを収集することができる。
 ③研究計画にて研究方法まで具体的に立案して、わかりやすくプレゼンテーションすることができる

授業の方法

ゼミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探究し、その解決を同じゼミナーの所属学生と共に演習形式で実施していく。

ICT活用

対面指導の他にオンライン指導を併用して行う

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミナー担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーションを受講し、研究の進め方や注意点について理解する。	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行い、本科目内での実施方法について熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員との打ち合わせから本科目内での実施方法についての改善点を熟考すること。(20分)
担当教員			
第2回	研究を立案する① 先行研究と照らし合わせ、自身の研究について考える。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	研究を立案する② 先行研究と照らし合わせ、自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			

第4回	研究を立案する③ 先行研究と照らし合わせ自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	研究を立案する④ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	研究を立案する⑤ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	研究を立案する⑥ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	研究を立案する⑦ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	研究を立案する⑧ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	研究を立案する⑨ 具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	研究計画のまとめ① 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	研究計画のまとめ② 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	研究計画のまとめ③ 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	研究計画の発表① プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	研究計画の発表② プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、研究実施に対する参加態度、プレゼンテーションを総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究Ⅱ				ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1

担当教員 橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、理学療法研究Ⅰで得られたデータを元の実験・調査研究を完成させることにより、基本的研究能力を養い、卒業研究論文作成や卒業研究発表を行う。このため「理学療法研究Ⅰ」と連動して実施する科目であり、卒後の理学療法研究の基礎となる。最終的にはディプロマポリシーである「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている(思考・判断・表現)」と「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」と関連する。

授業の概要

セミナー教員の指導の下に、理学療法研究Ⅰで得られた実験や調査データを解析および分析し、その結果を考察する。考察の過程の中で、グループ討議を通して実験および調査研究を完成させ、学科内における研究発表、論文作成まで一連の作業を通して基本的な研究能力を養う。

到達目標

- ①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。
- ②障がいを持ち、理学療法が必要な対象者を、研究の対象者として研究を立案することができる
- ③実験や調査データを解析および分析から、論理的に考察することができる。
- ④研究論文の抄録を所定の書式で完成させることができる。
- ⑤研究論文発表のためのスライドを用いてプレゼンテーションできる。
- ⑥研究論文発表における基本的技術、マナーを身につけることができる。

授業の方法

セミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探究し、その解決を同じゼミナールの所属学生と共に演習形式で実施していく。

ICT活用

対面指導の他にオンライン指導を併用して行う

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミナール担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、研究成果の発表会に伴い、内容についてのコメントを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	研究計画の立案① 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	研究計画の立案② 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第3回	研究計画の立案③ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第4回	研究計画の立案④ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第5回	研究計画の立案⑤ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第6回	研究計画の立案⑥ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第7回	研究計画の立案⑦ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第8回	研究計画の立案⑧ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第9回	研究計画の立案⑨ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第10回	研究計画の立案⑩ 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第11回	研究計画の立案⑪ 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第12回	研究データの収集①	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第13回	研究データの収集②	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第14回	研究報告会① 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第15回	研究報告会② 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、プレゼンテーション、参加態度を総合的に評価する。また、理学療法研究Ⅰの成績評価と連動する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		理学療法総合セミナー				ナンバリング	4580
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、木村 一志、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。理学療法を実施するための基本的な専門知識・技術を身につける科目であり、それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。

授業の概要

基礎医学、臨床医学、理学療法学の全領域について、4年間を通して学習した知識を整理し、理解を深める。またそれらの知識を応用して種々の疾患・症例に対し適切な理学療法評価・治療ができる能力を高めることを目的とする。学習の形態は課題に沿って講義やグループ学習を中心とし、各領域の講義を教員が行う。

到達目標

- ・基礎医学、臨床医学、理学療法学のそれぞれの内容を正しく理解出来る。
- ・障害の診断に必要な基本的なデータを理解出来る。
- ・各種症例に対し、基礎医学、臨床医学、理学療法学の知識を応用し評価治療計画を立案し、治療手技の選択が出来る。

授業の方法

パワーポイント、配布印刷物、教科書などを用いて講義形式で進める
模擬試験の結果についてはグループ学習を行う

ICT活用

講義は状況に応じてオンライン授業で行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、池野、木村、大森、橋田、松田、横井、柴田、高田、牧野、水本、佐々木、南部、鈴木は専門領域の担当教員の経験に即した講義を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

随時、質問を受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	ガイダンス 講義内容の説明、スケジュールの確認をする。	シラバスを読んでおくこと、事前 資料を学習しておくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	国家試験共通分野1 解剖学分野の問題を理解する	該当分野について、事前に教科 書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	国家試験共通分野2 生理学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科 書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	木村 一志		

第4回	国家試験共通分野3 運動学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	木村 一志		
第5回	国家試験共通分野4 整形外科学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	鈴木 信		
第6回	国家試験専門分野1 理学療法評価学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	国家試験専門分野2 発達障害理学療法学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第8回	国家試験専門分野3 物理療法学分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	国家試験専門分野4 運動療法分野分野(中枢神経障害)の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第10回	国家試験専門分野5 運動療法分野(運動器障害)の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	国家試験専門分野6 補装具療法分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	牧野 均		
第12回	国家試験専門分野7 地域理学療法分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	水本 淳		

第13回	国家試験専門分野8 日常生活活動分野の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第14回	国家試験専門分野9 内部障害理学療法分野(呼吸・循環障害)の問題を理解する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	国家試験専門分野10 および、まとめと試験 内部障害理学療法分野(がん)の問題を理解する。 これまでの内容を踏まえた試験を実施する。	該当分野について、事前に教科書を読んでおくこと まとめと試験の準備を行うこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと試験の結果で判定する。 (ただし、参加状況や出席態度を踏まえ総合的に判定する)
その他	0	なし
教科書		
指定教科書なし。これまでの教科書を準備する。 各回、担当教員が資料を準備する。		
参考文献		

クエスチョン・バンク/メディックメディア

履修条件・留意事項等

国家試験の願書提出後であっても、この科目が未修得であれば卒業不可となり、国家試験を受験することができない。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(1組)				ナンバリング	3534
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						

授業の位置づけ

「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」と関連する科目である

授業の概要

前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。
後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。

到達目標

”・マッサージの理論を説明できる ・マッサージの実技を実施できる ・Redcord Neuracの概念を説明できる ・Redcordの機能評価(Weak Link)を説明できる ・Redcordの基本的使用方法を実施できる ・Redcordの臨床応用実施できる”			
授業の方法			
配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。			
ICT活用			
必要に応じてオンラインでの講義を行う。			
実務経験のある教員の教育内容			
両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。			
課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第7回	- Redcordの理論と実技② - Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	- Redcordの理論と実技③ - 機能評価の方法(Weak Link) OKC (開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	- Redcordの理論と実技④ - 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第10回	Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第11回	Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		

第13回	・Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	・Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	・Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること

備考欄

都度必要な資料を配布します。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(2組)				ナンバリング	3534
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						

授業の位置づけ

「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」と関連する科目である

授業の概要

前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。
後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。

到達目標

- ・マッサージの理論を説明できる
- ・マッサージの実技を実施できる
- ・Redcord Neuracの概念を説明できる
- ・Redcordの機能評価(Weak Link)を説明できる
- ・Redcordの基本的使用方法を実施できる
- ・Redcordの臨床応用実施できる

授業の方法

配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの講義を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcordの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第7回	- Redcordの理論と実技② - Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	- Redcordの理論と実技③ - 機能評価の方法(Weak Link) OKC (開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	- Redcordの理論と実技④ - 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第10回	•Redcordの理論と実技⑤ - 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第11回	•Redcordの理論と実技⑥ - 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ - Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		

第13回	・Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	・Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	・Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること

備考欄

都度必要な資料を配布します。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅴ(総合)				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる脳力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」、理学療法士としての臨床場面での技術や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。

到達目標

- 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築) - 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) - 指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる
--

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には、実習後試験、報告会・グループワークを実施する。
--

ICT活用

必要に応じて適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。 佐々木はは理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。 水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。
--

課題に対するフィードバックの方法

実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後試験の結果から臨床実習における知識の成果をフィードバックする。また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅵに向けての準備を行う。また、学内報告会に引き続きグループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。
--

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野、佐々木、水本)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員			
第2回	実習前OSCE: 事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域から試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野、佐々木、水本)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員			
第3回	実習前学習: 特別講義および自己学習を行い、臨床実習Ⅴの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(池野、佐々木、水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員			

第4回	臨床実習:6週間(令和7年4月14日～5月23日)の実習を臨床実習Ⅴとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員			
第5回	実習後試験 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野、佐々木、水本)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後試験に備える。	実習後試験の結果について復習しておく。
担当教員			
第6回	実習後学習および報告会・グループワーク 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。報告会の後、グループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。(池野、佐々木、水本)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとに前後のOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		

姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社

履修条件・留意事項等

総合臨床実習Ⅴの単位取得を条件として臨床実習Ⅵを履修できる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅵ(総合)				ナンバリング	4706
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	牧野 均、池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。

全ての科目の基本事項を理解し、実際の理学療法を学ぶための科目である。国家試験や卒業後の臨床における基礎となります。

授業の概要

臨床実習Ⅴの内容を踏まえ、実際の症例の状況の変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実際に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法の進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。

臨床実習は、臨床実習Ⅴで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに、治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することまでを目的とします。

実習生は診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得していきます。

到達目標

以下の項目に関し、「見学」から始まり、「協同参加・模倣」を経て、「実施レベル」に至るまでの段階的な学習を行い、多くの水準の症例をバランスよく経験すること。 ① 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。 ② 対象者の評価に必要な情報を収集できる。 ③ 適切な評価ができる。 ④ 対象者のリスク管理に配慮できる。 ⑤ 評価結果を統合・解釈し、問題点を抽出できる。 ⑥ 問題点の抽出により目標設定、治療プログラム立案ができる。 ⑦ プログラムに基づいて治療が実践できる。 ⑧ 再評価を行い、初期評価から最終評価までの経過を考察することができる。

授業の方法 基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、実技＋口頭試問および講義・実習を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実際を経験する。 実習後には、実習後試験、報告会・グループワーク、実習後OSCE及びOSCEのまとめと講義を実施する。
--

ICT活用 ZoomやGoogle classroomを用いて遠隔学習を提供し自主学習を促す等、必要に応じて適宜活用する。
--

実務経験のある教員の教育内容 科目担当者は全員、病院施設での実務経験を有している。
--

課題に対するフィードバックの方法 実習前課題 実習Ⅴの反省を踏まえて、Ⅵに向けた課題を提出しフィードバックを受ける。課題はⅥの施設や疾患及び実習前学習にて提出した各々の課題に基づくものである。また、実習に向けた領域の範囲から試験を行う。 実習中課題 ポートフォリオやディリーノートを実習指導者に提出することにより、適宜アドバイスを受ける。また、教員による実習訪問にて、実習状況のフィードバック等を行う。 実習後課題 学内でパワーポイントを使用した実習の報告会后グループワークを実施し他の学生と実習内容を共有する。動画提示に基づく課題提出後に実習後OSCEを行う。実習後OSCEの結果をフィードバックしOSCEのゼミ教員と振り返りを行う。OSCEの課題提出を基に講義を行う。また、実習に基づく領域の範囲から試験を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	実習前オリエンテーションおよび実習前指導(牧野、池野、南部) オリエンテーション:① 実習施設の発表と交通手段・宿泊等の確認 ② 実習に関する注意事項の説明 ③ 実習施設に関する調査課題提出	実習施設の概要、交通手段等について理解する。(90分)	実習に関する注意事項尾について確認する。(90分) 実習施設に関する調査課題。(90分×2)
担当教員			
第2回	実習前指導:全員対象とした筆記試験および自己学習を行い、臨床実習の目的を理解する。最終評価から統合解釈を行い、考察する知識の確認を行う。(牧野、池野、南部)	理学療法治療プログラムを立案するための病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 治療を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)	実習に向けて初期評価から統合と解釈・最終評価・考察をまとめるまでの理学療法の実践について理解し確認を行う。(90分)
担当教員			
第3回	実習前学習指導 特別講義および自己学習を行い、臨床実習VIの目的を理解する。 ① 正常歩行 ② 中枢疾患の歩行 ③ 整形疾患の歩行 ④ 重度介護者の介助及び援助 ⑤ 臨床推論とICF、ポートフォリオ ⑥ 内部障害の考え方 (90分×6)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。 それぞれの講義で提示された課題を提出する。(90分×6)
担当教員			

第4回	学外臨床実習:6週間の実習を行う。(牧野、池野、南部) 実際の症例に対し、「見学～協同参加～実践」を通して、「評価」から「統合と解釈」及び「最終評価」を学ぶ。「最終評価」の考察を通して理学療法の実践について理解することができるようになる。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。(90分)	実施過程をディリーノートに記録し確認を行う。各担当教員の施設訪問や指導を必要に応じ行う。 ディリーノート記載及び自己研鑽学習後に、各自施設での「見学～協同参加～実践」を行ったそれぞれの症例及び他の理学療法やリハビリテーション医学全般に関して学び、ポートフォリオにまとめる。(90分×2)
担当教員			
第5回	実習後指導および報告会、実習後試験を行う。(牧野、池野、南部) 実習後指導実習後評価 サマリー提出および自己学習実習報告会 パワーポイントにて実習にて経験した内容のプレゼンテーションを行う。発表はゼミ単位で行う。報告会後に学生間でグループワークを行い、実習内容を共有する。臨床理学療法に関する実習後試験を行う。	6週間の臨床実習を反省的にとらえまとめる。(90分×3)	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーの修正と再提出を行う。(90分) 病態像の知識の確認を行う。(90分×4) 最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分×4)
担当教員			
第6回	動作分析課題を事前に実施し、「統合と解釈」を提出する。実習後OSCE後に、提出課題を基にした講義を行う。	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。動作分析課題から評価内容を予測し実習を行う。(90分×4)	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員			

第7回	なし		
担当教員			
第8回	なし		
担当教員			
第9回	なし		
担当教員			

第10回	なし		
担当教員			
第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			

第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前試験と課題、実習後報告会、実習後試験と臨床実習指導者からの報告書、実習後OSCE、実習後OSCE課題を基に総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄